

## 平成16年度 第3回和光市国際化推進懇話会報告（要旨）

日時 平成16年2月21日（月）午前10時から

会場 庁議室

- 議題
- 1 国際化推進について（配付資料参考）
  - 2 平成16年度和光市国際化推進懇話会中間報告について
  - 3 国際化ネットワークの活動について
  - 4 その他

出席委員 井上良美、吉井純行、渥実玲子、大澤衛、豊哲男、坂井好美、田中明、鈴木誠

欠席委員 高岸美代子、北村恵美子

事務局 企画部次長、政策課副主幹、同主査、同主事補、国際交流推進員

配付資料 平成16年度第3回和光市国際化推進懇話会会議次第、  
第2回和光市国際化推進懇話会まとめ（裏面：2005市民まつりへの取組について）  
国際化推進懇話会最終報告（平成14年11月提出）

### 事務局

第2回懇話会会議におきまして、来年度に向けたいろいろなご意見をいただきました。市といたしましても、できるだけ意見を取り入れながら国際化推進を図って参りたいと思います。また、議会質問等におきましても、和光市の国際化をどう進めるのかという意見もかなり出ております。それだけ重要な施策であると思います。平成13年度に22年度までの10年間の国際化推進計画を策定いたしました。平成17年度で半分ということになります。そういう中で、懇話会の皆さんには計画の見直しについてご意見を頂きたく、お願いいたします。

新聞等で、ご覧になられた方もいらっしゃると思いますが、1月20日に理研と埼玉県が「相互協力に関する基本協定書」を締結いたしました。今後、国に対する「国際研究開発・産業創出特区」の申請や、研究成果が素早く社会に還元され、「地域に新たな産業の創出」を図るための支援。理研と県内企業との交流機会を増やすことによる産・学・官連携が進められて参りますが、それに関連して、外国人研究員及び家族の受け入れ、研究しやすい環境づくりや支援等も今後の課題であると思っています。懇話会の皆さんにもご意見をいただきながら進めていきたいと思っています。よろしくお願いいたします。

### 1 国際化推進について

井上会長

まず国際化推進について話し合いしたいと思います。初めに事務局の方でご説明いただけますか。

事務局

皆さんに姉妹都市ロングビューの市民海外派遣事業についてご意見を多数いただきました。前回のまとめの資料にもございますが、市民海外派遣事業については 個人負担金等、 内容、

募集方法について常に問題になっておりました。ご意見の中では、市民負担を減らす。(補助を出す) 時間をかけて準備した意識の高い市民(少人数)に行ってもらおう。このまま継続した方が良い等のご意見をいただきました。また、平成8年からテロやSARSの影響を除いては継続をさせてきた海外派遣事業であるから、今後は毎年でなくても、例えば姉妹都市提携10周年の2009年のような年に合わせて効果的に実施してはどうか。というご意見もいただきました。市といたしましては、頂いたご意見をもとに検討しました結果、姉妹都市との交流を活発にするのに、市民海外派遣に頼るだけではなく、「内なる国際化」に力を入れながら市民の国際化意識の向上を図り、タイミングの良い時期に市民海外派遣を実施したいと考えております。ちなみに、今回派遣事業に参加された方達は、ロングビューでの歓迎と様々な体験にとっても感激され、今後の国際化推進事業への協力をいただけるとのことです。既に和光市のHPの姉妹都市コーナーに記事掲載をしていただきました。市民まつりの国際PRにも参加いただく予定です。

繰り返しになりますが、市民海外派遣事業につきましては、継続してやってきた効果がある程度出たという判断で、今後は多くの市民の方に姉妹都市をよく知っていただき、市民が、「行きたい」「訪問団として訪れてみたい」という意識が高まり、そういう声が大きくなってきたときに実施するという方向で考えています。ただ、市民海外派遣というのはやはり、目玉となる事業でございますので、それに代わるものが必要だという意見を前回の会議でいただきました。

平成17年度に、市がどのような新規事業を展開していこうとしているかについてお話いたします。まず、前回ご提案いただきました和光市独自のワンナイト・ステイを考えております。現在、県で実施しておりますワンナイト・ステイ事業の趣旨に賛同していただき、ホストファミリーとして登録していただいている家庭に、市内の外国人、まずは理化学研究所の研究員の方が対象になる可能性が高いと思いますが、市内の家庭にワンナイト・ステイをして交流を深める事業を市独自で実施したいと考えております。

また、和光市内を市在住の外国人の方に知ってもらうために、市民と交流を持ちながら市内の社寺や施設を一日かけて回っていただくという企画がございます。

ロングビュー市との交流につきましては、姉妹都市締結記念日の10月1日に合わせまして、「ロングビュー・ウィーク(週間)」というような名称で、今まで交流してきた内容等について、広く市民の方によく知っていただくために、集中的にPR活動を行うことも考えております。今の段階では以上です。

井上会長

事務局からご説明がありましたように、「ロングビュー市との交流のあり方」について、「内なる国際化」について今後どうしていくか、事務局からの提案も含めて皆さんの意見をいただきたいと思います。まず、ロングビュー市への派遣について、事務局としてはこのまま継続していくのではなく、なにか違った形でロングビューと関われないかという提案でしたが、ご意見・ご提案はありますか。

#### 渥実委員

いつ派遣をするかということですが、提案としては2009年ということになっています。これは具体的に4年後になります。少し間隔が開きすぎると感じました。毎年の実施が難しいということであれば、隔年の実施を考えられてはどうでしょうか。

#### 豊委員

私も、2009年まで派遣しないというと、少し遠いという気がしました。ただ、来年度から10月1日をロングビュー市との姉妹都市提携デーにして、市民に関心を持ってもらうイベントを実施するというので、確かに提案の中にロングビュー市に行きたい、行ってみたい、行こうという市民の方からの気運が沸いてこなければ、派遣実施人数が集まらなくて、お願いして派遣に行ってもらおうというような形では意味が無いと思うので、2009年までやらないというのではなくて、今年に姉妹都市提携の記念イベントを行い、それがどの程度効果があったかを検証し、それを踏まえて2006年以降市民の意識が向上されて気運が高まったら、実施するという形にしてはどうか。2009年に派遣を実施するのは良いと思うが、それまでに何かしらの形で実施するという含みを残した方が良いと思う。

#### 井上会長

お二人の意見は、2009年まで実施しないということは4年間もある、これでは間延びするのではないかとということでした。来年度は実施しないとしても、ロングビューのPR活動をして、市民にロングビュー市を知ってもらい、その後市民からの声を集めて実施してはどうか、今後ロングビューをどのような形でPRしていくかという意見であると思いますが、他のご意見はございますか。

#### 鈴木委員

前回の会議は所用で欠席しました。その際に、書面で事前に照会があったロングビュー市民海外派遣についての意見を出しました。このまとめの中には触れられていないので、この席で発言したいと思います。今、豊委員のお話にもありましたが市民の盛り上がりがない姉妹都市というのはあまり意味がないのではないかと思います。無理矢理、ロングビューと和光市の関係を説明して市民を集めて行くというようなことでは意味がないと思います。私自身、よくわからないのですが、なぜロングビューと姉妹都市を結んだのか、そこに都市としてのお互いの共通点のようなものがあるのかと。既に姉妹都市関係があるから続けていくというのは意味の無いことだし、その点をもう一度根本に返って検討した上で次の派遣などについて考えるべきであると思います。私は、このまま4年間放っておいたら何も盛り上がりもなくなってしまうのではないかとということだけではなく、盛り上がらせるために、どうしてこの関係ができたのか、そこにお互いが学べる点があるかということを検証することが一番大事であると思います。

一般的に、友好都市等は、例えば港湾都市等では同じ港を持ち、そこに生活する市民で、非常にシナジー効果（相乗効果）が得られるということが挙げられます。しかし、ロングビュー市と和光市を比べたときに、規模以外に何が共通しているのか全くイメージとしてありません。

今の様な時代では、いくらでも個人ベースで安い切符で行けますし、むしろ市民にとっては“なぜそこに参加するか”という点に？がつくのではないかと思います。その点を、積極的に手を挙げてやりましょうという盛り上がりが必要であると思います。

例えば、一私企業のことと言うとよくないと思いますが、和光市にはホンダ技術研究所等があります。そうすると、アメリカということであれば、オハイオ州のメアリーズビルには同じようにホンダが出ていますから、仮に、シナジー効果があると、例えばそこに働く人や職場環境、住環境等の点で関心を持つ人が多いのではないかと思います。共通点がある、学べるところがある場合は、市政の運営面でもプラスになる部分が大きいのと思います。その辺りをこの機会に徹底的に見直した方がよいと思います。

#### 井上会長

今のご意見は、もう少し、なぜロングビュー市と関わるようになったのか、考えるということですね。事務局としてはロングビューの市民派遣を含めまして、どのように考えて進めてこられましたか。私は、ロングビューの派遣は決して無駄ではないと思います。それも含めまして、今までの経緯や姉妹都市提携することによってどのようなことができたかということも含めて説明してください。

#### 事務局

市民海外派遣の意義ということによろしいでしょうか。それは参加者の国際化意識の向上促進であると思います。例えば国際交流会は第1回目の市民訪問団の皆さんが集まって結成された訳ですが、実際に現在も活動をされていますし、市民派遣の成果であると思います。和光国際交流会は、今年度の彩の国国際貢献省を受賞されました。埼玉県の中で“和光市では和光国際交流会が国際化に関する協力支援を積極的にやっている団体である”ということが認められた表れであると思います。

これは問題でもありますが、市民訪問団の経験者に連携をとってもらい、何か活動を起こすまで至っていないことがこれからの課題であると思います。今回、参加していただいた方からは、「行って見て、良さが分かったから他の市民の方にも広く知ってもらいたい。それを広報するのは市の責務である、もっとPRをすれば参加者も増えるはずである。」というご意見をいただきました。少し話がそれますが、市民だけではなく、中学生もずっと継続して派遣をしていることによって、若いうちから国際化の意識が備わるという点、また、交流したことによって、AET（英語指導助手）のラーズ・ペターソン氏がロングビューから和光に友好的な意思を持って、実際に教育という面で活躍している点等、非常に評価できることであると思います。

#### 吉井委員

原点に戻った方がよい、根本から見直した方がよいという意見が出ましたが、ロングビュー市との関係はすでに始まっています。それなりの関係も築いてきたと思います。否定するのは簡単なことですが、否定しないでなんとか努力する必要があると思います。今までやってきたことをよくレビュー（見直し）してみるべきだと思います。99年10月1日の提携日を記念

して今年はPR活動を活発にさせるということですが、その対象は市民になっています。ちょっと視点を変えまして、ロングビュー市があまり和光に来ていないということを聞いています。平成14年の7月にロングビューから何人か来られたそうですが、このときにロングビューの方が市民全般に話をする機会等はありませんでしたか？

事務局

市民全般にはお話をする機会はありませんでした。

吉井委員

それは非常にもったいないことをしましたね。その時に、市民に広くロングビュー市というのはこういうところで、こういう特徴がある、和光市とのこういう関係や共通点がある等の話を、市民に直接ではなくとも、市内の活動団体との交流があったのかと思いました。

事務局

市民全般ではありませんが、過去に海外派遣事業に参加された方にお声をおかけしました。あとは、市議会議員・職員等がお話を聞きました。

吉井委員

それにも関連しまして、案ですが、市民まつりというのはたくさん人が集まりますし、市民同士が直接交流があるということですが、そこで、ロングビュー市から誰かを呼んできて、その場で大々的に“ロングビュー市はこんなによい所です、ぜひいらしてください”という趣旨の企画をして、PRをすればすごく効果があると思います。

渥実委員

市民まつりは一日ですよ。市民まつりもよいと思いますが、ロングビュー・ウィークというものを設けるのであれば10月の一週間に実施するのによい期間ではないかと思います。

吉井委員

更に言えば、ロングビュー市に対して和光市のPR活動をしないと、“なぜ、和光市に行かなければならない？姉妹都市だから？”というのでは意味がありません。ですから、和光市側としましても、ロングビュー市に対して情報を発信していく必要があると思います。

例えば、ロングビュー市のHPに日本語ページは作っていないと思いますが、和光市が働きかけて日本語ページを作るようお願いしてはどうでしょうか。和光市のHPで、“この度、姉妹都市のロングビュー市がHPに日本語ページをアップしましたので是非アクセスしてください。海外派遣事業も実施しています、ぜひご参加を！！”ということをやれば、市民も参加してくれると思います。また、和光市にはスペシャリストでいろんなことに関心を持っている方がいらっしゃいますから、そういう方たちはある特定のテーマについて話をして、双方の共通点等、専門的にディスカッションするように発展していく可能性があると思います。このようなことをやっていないのであれば、これからやっても遅くないと思います。

鈴木委員

誤解のないように発言させていただきます。私は、今の姉妹都市提携を否定するつもりはあ

りません。豊委員の意見と同じで、市民の盛り上がりのない姉妹都市提携であるなら意味がないと思います。市民が積極的に参加するというような方向に持っていかなくてはならないと思います。例えば2009年に派遣というのであれば、それまでの期間に努力をするべきであると思います。今、吉井委員がおっしゃったことと同じですが、むろん我々の方の努力も必要ですが、相手の方にもそれなりの努力をする必要があると思います。何か働きかけをするよい機会であると思います。

吉井委員

事務局に伺いたいのですが、いろいろな市町村がいろいろな所と姉妹都市等を提携していると思いますが、そういう情報はどうしていますか。どこどこが提携しているというのはHPを見れば分かることですが、抱えている問題等についての情報はありますか。

事務局

県の国際課でとりまとめられたものを定期的にご送っていただきますが、どういう状況で何をやっているかということ、そこで起きた諸問題等について話をする機会はありません。

吉井委員

とても参考になるとは思います。提携した関係において、いろいろな問題があると思います。参考になることもあると思います。そういう情報を得る努力を市でしていただきたい。

大澤委員

鈴木委員のお話にもありましたが、まず市民に“なぜロングビューなのか”ということに対して理解をしてもらっているのかという点です。また、ロングビューさえ知らない人も多いと思います。ロータリーでは3～5年に一度程度のお付き合いをしています。しかし、ロータリー会員でさえ、どうしてロングビューなのかということを知っている者は限られています。これが、一般市民になるとほとんど、ロングビューがどこにあるのか知らないという状況であると思います。ニューヨークやサンフランシスコ等の大きい街であればともかく。我々のような環境にあってもロングビューは古いアメリカの町でいいらしいよ、という程度しか分かりません。このままロングビュー市と続けるのでしょうか。ロングビューですと、何かをやるにしても、まず英語でないと話が通じません。日本人が日本語でアクセスするということは無理です。ロングビュー市に行けば、歓迎してくれるそうですが、それが必ずしもロングビュー市自体が和光市との提携を盛り上げていることにつながるのかは疑問です。ロングビュー市民が和光市に対してどの程度の認識を持っているのか、お互いのPRが不足している気がします。

ロングビュー・ウィークを作るのであれば、駅前でのPR活動を行ってはどうでしょうか。“今週一週間はロングビュー市との提携記念のウィークです”というようにPRすれば、通勤する市民も「何だろう？」という興味を持つと思います。市役所の中で何かをしても、市役所に来る人数と駅を通る人数どの程度の違いがあるかというのは明らかです。垂れ幕等はいくらもかかりませんから、駅に貼らせてもらう、ポスターを貼らせてもらうということができるとは思います。営利的なものではありませんから、駅に掲示することは可能であると思います。

井上会長

内なる国際化にも関わることですね。坂井委員ご意見はありませんか。

坂井委員

皆さんのご意見のように、ロングビューのことを知らない人がほとんどだと思います。

まず、周知することからはじめる必要があると思います。知らなければ、市民の盛り上がりにもつながらないと思います。大澤委員のご意見のように目のつくところでPRしたり、いろいろな媒体を使って、例えば広報の小さい欄に毎月、“ロングビューだより”等で継続的に目にできて、市民の方の記憶に残るような方法を考えるべきだと思います。

田中委員

みなさんのおっしゃる通りだと思います。私自身もよくロングビュー市についてよく分かりません。ただ、こういう町であるという程度です。アメリカに行った時に寄った記憶はありますが、正直あまり印象に残っていません。人が海外に行くときに、どれだけ印象に残っているかということが普及することにつながると思いますが、それが欠けているように思います。何年かかるか分かりませんが、内なる国際化ということも含めてPRをしていかなければなりませんし市民の認識がないというのは歴然とした事実であると思います。

井上会長

内なる国際化をどのようにもっていくか、今後のロングビュー市との関係を含めましてご意見をいただきました。一つのアイデアとしましては、駅前で宣伝をする等、市民の目に留まるように、効果があるような宣伝は必要であると思います。ポスターや電光掲示板等を使ってPRするという事をご提案いただきました。

事務局

実は、ロングビュー市からいただいた、1時間程度のロングビュー紹介ビデオが2本あります。それは全て英語で紹介しております。事務局といたしましても、PRするために日本語で、15分程度に簡潔にしたものに編集しようと検討しましたが、予算の問題で厳しい状況です。そのビデオを使って、ロングビューを紹介するということは、かなり効果的な方法であると思います。2時間を全て市が編集するというのは難しい部分もあります。例えば、ネットワークのご協力を得る等の、よい方法があればお話いただきたいと思います。

それをそのまま流したとしても、ずっと見てくださる方はいないと思います。ある程度簡潔にいくつかをピックアップして紹介すれば、目に留まって興味のある方には見ていただけると思います。その辺の利用の仕方を決めていただきたいと思います。

井上会長

今の事務局の話では確かに、それをそのまま流すのでは、何だろうと画面を見る方はいても、耳に入ってこないと思います。また、インパクトもありません。それを日本語版に縮小してやりたいと。ボランティア的なものですか。

事務局

そういう方法もあるかなと思います。

井上会長

編集するというのは、ただ英語を日本語に訳すだけではありませんよね。要するに、ビデオの技術も必要ですし、いろいろなものが絡まってきますよね。

吉井委員

アイデアですが、HPのロングビュー市のページに短くしたものを取り込むというのはいかがでしょうか。日本語にするのは簡単だと思いますが、映像の編集は難しいと思います。

井上会長

一度みんなで見てみたいと思います。見られたことはありますか。

事務局（国際推進交流委員）

市の成り立ちから、現在まで通して紹介しているものです。“こういう政策・事業をやっています”というようなものもあります。

吉井委員

もう一つのアイデアは、ロングビュー市に短いPRビデオを和光市向けに作ってくださると依頼してはどうでしょうか。“映像だけでよい、日本語はこちらで入れます。”というのはどうでしょうか。

渥実委員

こちらからも和光市のPRビデオを送った方がよいですよ。

吉井委員

和光市の英語版はありますよ。

井上会長

でも、ロングビューには和光市のPRビデオを送っていませんよね。

事務局（国際化推進交流員）

送っていません。

井上会長

確かに、お互いに知らないところは多いと思います。もっとお互いをPRすれば、“行ってみよう”と思われる方も増えるのではないのでしょうか。

渥実委員

ロングビューというと馴染みがありません。シアトルはワシントン州の州都で、日本で浸透してきていると思うので、キャッチフレーズとして、“シアトル近郊の緑の美しい町ですよ”というように、シアトルに近い町であるということが分かれば、比較的早く市民に浸透していくのではないかと思います。ただ、ロングビューと言うと、東にあるのか、西にあるのか、中央にあるのか全く分からないと思います。シアトルで一つのイメージがつかめるのではないのでしょうか。

事務局



なにかイメージできるものがあれば市民の方にも“行ってみたい”と思っていただけたらと思います。

## 2 平成16年度和光市国際化推進懇話会中間報告について

井上会長

和光市国際化推進懇話会で、平成16年度にこのようなことを話し合いましたという、市長に提言をするのですね。

事務局

お手元の資料に、前会長名でお出しいただいた最終報告書があります。今回の懇話会委員の任期が平成18年の2月ですので、その間に皆さんには振興計画に基づいて国際化推進計画を見直していただきます。前は、懇話会の目標、ネットワークの構成と情報の共有、或いは今後の課題等についてご提案いただきましたが、今回も任期中に中間報告と最終報告を出していただきたいと考えております。

井上会長

このことに対して何かご意見はありますか。

吉井委員

取捨選択を事務局の方で勝手にやらずに、中間報告には全ての意見を漏れなく書いていただきたいと思います。最終報告に至るまでに、いろんな意見の中から重点的に何をやるかという最終的な結論は議論した上で決まってくると思いますが、中間報告ですから、市長にいろんな意見が出ていることを、全部入れて欲しいというのが私の要望です。

井上会長

中間報告には、ほとんど意見を入れてありますよね。

事務局

そのようにさせていただきたいと思います。多少調整をする場合はありますが、極力皆さんのご意見を忠実に載せるように努力いたします。また、チェックしていただく段階で漏れや間違い等をご指摘いただきたいと思います。

鈴木委員

前回の最終報告、或いは中間報告の作業の時には、各委員に責任がありました。事務局に丸投げをするのではなく、委員の方からそれぞれ簡単な思いを書いていただいて、それをまとめるような流れで進めたと記憶しております。

井上会長

今まで話し合ってきたこと、各委員の方から出された意見を事務局にまとめていただいて、その上で皆さんのご意見をいただきたいと思います。

事務局

そのようにいたします。まずは案を作成いたしまして、その中に皆さんの意見をいただく欄

を設けますので、そこに入れていただいたご意見も含めまして中間報告書を作成したいと思います。

### 3 国際ネットワークの活動について

井上会長

このことについて事務局の方から説明はありますか。

事務局

まず、ネットワークを立ち上げる際に、“ネットワークは各団体がお互いを知る機会、交流の場として考えられればよいのではないか。高い理念を持って活動した方がよい。また、身近なところから取り組んでいき、徐々に発展させていけばよい。”というご意見をいただきました。ネットワークの現在のメイン活動が、市民まつりでのPR活動になっております。この活動は非常に好評ですので今後も皆さんには是非ご協力をいただきたいと思います。皆さんには、事務局は政策課ですとお伝えしておりますが、実際ネットワークがどんどん大きくなっていけばネットワークの皆さんが主導になって動かしていただきたいと思います。今の時点では政策課が事務局をさせていただいておりますが、中心となる窓口が誰であるかということについては申し上げておりませんでした。今後、ネットワークを活発にするためには、和光市政策課の中に国際化推進交流員がおりますので、ネットワークの担当とさせていただきたいと思います。各団体で催す行事の情報や提案等を国際化推進交流員に持ってきていただきたいと思います。ネットワークについてはいろいろな可能性がございますのでお話が尽きないと思いますが、限られた時間の中で何かご意見がありましたら是非お願いしたいと思います。

先程、市の新規事業（案）についてお話をいたしました。市内在住の外国人の方を対象に和光市のいろんな施設等を回って和光市を知ってもらうという企画でございます。もし、この事業が好評であれば、将来的にはもっと大きなイベントになっていく可能性があると思います。現在、ネットワークとしてはまだ、それ程の機能を果たしておりません。皆さんの呼びかけにかかっていると思いますのでよろしく申し上げます。

井上会長

今は確かに、市民まつりで政策課と一緒にPR活動に参加するというのが唯一のネットワークの活動になっています。これについて何かご意見はありますか。

私は去年、志木のふれあいフォーラムに参加しました。これについて少し説明させていただきたいと思います。志木市の場合は、市民と市と協同で手作りの交流会を開いています。去年は、手作りの軽食を取りながら集まった人たちとお話をしたり、その中から得意な分野について自己紹介しながらPRしていました。小さなものも含めまして、このような催しが和光市でできないかと思っているのですが、それについてご意見をいただけますでしょうか。

鈴木委員

前回の懇話会で初めて、ネットワークが立ち上がったばかりです。今、事務局からその窓口

として国際化推進交流員を、というお話がありましたが、平成14年に提出しました最終報告書にも書いてありますが、いろいろな部門で国際との接点のある団体が、各々の情報を交流員に集中させる方法がルートとして必要であると思います。例えば、“今年はこの人がAETです”というような情報を交流員に伝え、窓口としてはネットワークメンバー全員にその情報が還元される、或いはライオンズ・クラブやロータリーが“海外からの学生を受け入れます”という情報を交流員に流すと、その情報が全員に伝わるというようなものをイメージして、国際ネットワークを考えていました。理化学研究所の場合は数が多いのですごく大変だと思いますが、何かそういうものを確立したいと思います。研究者の家族が来るということを理化学研究所は学校に連絡のほかに、全体でそういう情報を共有していればネットワークとしてできることがあると思います。和光市国際交流会が一番いろいろなかたちで接点を持っていると思いますが、それをネットワークとして機能させていくともっと情報が行き交う方向に持っていきたいと思います。インターネットのいろんな活用の仕方もあると思います。

#### 豊委員

関連する話ですが、市内で子どもの関係で活動しているグループがあります。そのグループはインターネットでHPや掲示板のようなページに登録しています。そこに、書き込んだことがそのまま全ての会員にメールが届くというシステムになっています。例えば、理研が学校に「今度こういうことがあります」と送った内容も皆が知ることが出来る。それに対して書き込みもできる、その書き込みに対して返事をしたり・・・というようなやり取りがネット上でできます。例えば今日配布された資料等も、ブリーフケースというフォルダーに入れておけば、各自がそこにアクセスして、自分でダウンロードして、プリントアウトできるのでプリントを配る必要もなくなります。そのような機能がインターネット上では可能ですので、活用するのはどうでしょうか。窓口を交流員にして、各々のメールアドレスを登録する形にすればよいと思います。今までは、一方的に政策課から、例えば、私のところにメールが来て、その返信をするというようなことはやってきたが、一対一の情報交換にすぎません。マルチになっていないので、ネットグループというものを使えばそれが可能になります。そのようなことも事務局の方で検討していただきたいと思います。

#### 井上会長

メールマガジンとは違うのですか。

#### 豊委員

違います。

#### 鈴木委員

メールマガジンは一方的ですからね。

#### 渥実委員

プライバシーの問題もあると思いますが、全員のメールアドレスを明らかにしているわけではないのですね。

豊委員

していません。名前も違います。

井上会長

メールはすごく便利であると思います。しかし、会議では皆さんがご意見を言ったり、話を聞いて考えてすぐに意見を述べるすることができます。文章上ですと、解釈の違いで意味が違ってくるといふ面もあると思いますので、その部分が少し怖いと思います。便利ですが、便利の裏側に落とし穴もあると思います。

豊委員

もちろん正式に、顔を見ながら話し合うことが大前提ですが、年に3回しか開催されない会議を補完する形でという意味です。

大澤委員

情報交換ということですよ。

鈴木委員

そこで結論を出すわけではありませんから。何かを決める際にはフェイス・トゥー・フェイスで。

事務局

今、豊委員が提案されたことは、国際化推進計画の中にもあります。和光市HP上でバーチャルの国際化推進ネットワークという形で、今の計画に基づいていますので、ある程度検討が必要であると思います。

井上会長

今、インターネットを使ってというご意見が出ましたが、何か他のご意見はありますか。

豊委員

前回の意見書にも書きましたが、せっかく国際ネットワークができているのに、結果的には今のところ市民まつりでイベントをやるのが唯一の活動になっている気がするのでもったいないと思います。市民まつりの活動も続けていきますが、来年度に新規事業(案)がいくつかあるようなので、すぐに全ての団体が参加できるようになるとは思いませんが、ネットワークとして事業に関わって情報を共有していきたいと思います。最初にネットワークが設立させたときに、会員の紹介のようなものを作ってもらいましたが、知らなかった団体等のことが分かってすごくよかったと思います。あれは一度だけだったので、それ以降変わっているところもあると思います。そのような情報の共有は会議等を開催する必要もなくできることです。お互いの情報を共有することで中身が深くなって、輪が広がっていくのではないのでしょうか。ぜひ、お互いの情報交換をより積極的にやれる手だてを取りたいと思います。

井上会長

お互いの情報をうまく共有できるシステムを構築する必要があるというご意見でした。

渥実委員

イベントとして先程から、名所・旧跡を巡るということが出ていますが、確か和光市でウォーキングという形で募集していると思いますが、それにこのイベントを便乗させて外国人も一緒に連れて、集まり具合によってボランティアとして英語で説明する人を募るといった形が手取り早いと思うのですが、いかがでしょうか。

事務局

今のところ考えておりますのは、外国人の方をメインに考えて政策課の事業です。もちろん、基本的に歩いていただきますが、まずはバスで移動しながら説明等の話をしようと考えております。例えば、お昼時間には各自で持参していただきましたお弁当等を広いところでお食事を取っていただき、午後は再びバスで移動しある程度行ったら歩いていただくということを考えております。

豊委員

いつ頃を予定していますか。

事務局

季節のよい時期に実施したいと思っています。

渥実委員

バスツアーも良いと思いますが、ウォーキングも良いと思います。

鈴木委員

市の実施している行事、国際ネットワークで参加している市民まつりが一番大きなイベントですが、市の市民を対象とした行事で、外国籍の人にも来てもらった方がよいと思う考えもありますが、市の行事というものの自体で、外国籍の人も参加したら喜ばれるようなものをリストアップして、ネットワークの情報として共有することも大事なことであると思います。

井上会長

確かにそうですね。上手に便乗させていただいて、それが発展していけば交流の発展にもつながると思います。

前回出ました、インターナショナル・デーを設けて、ウィークということで一週間イベントを行うというのも一つの案であると思います。

これらについて何かご意見はございますか。

意見ですが、この志木市のイベントを例として出しましたのは、定着していて大きなものですが、もっと小さなものでもよいのでやりたいと思うのですが。

鈴木委員

市が主催ではありませんが、理化学研究所さんの年に一回ほどの交流会をやっておられますし、和光国際交流会の活動も毎週水曜日に中央公民館でやっておられます。そのような情報を仮想上の会議に流せばよいと思います。志木市のように市が音頭をとって何かやるとなりますと費用もかかりますし、新たに何かを起こすと大変ですが、今までやってきていることを情報交換することによって盛り上がっていくという形になるかと思います。

井上会長

ネットワークの中で一つになって何かできないかなと思ひまして。個々に活動していることはありますけれど、せつかくネットワークが設立されましたので、皆さんと協力して、お金のかからない何かができないかなと思ひています。

渥実委員

市の方からロングビュー・ウィークにあわせた事業についてお話がありましたが、具体的な予算等について教えてください。

事務局

ロングビュー・ウィークとしては特別に予算は取っておりません。展示や既にある啓発物等を用いてできる事をやりたいと思ひます。お金をかけることも必要な場合もありますが、このロングビュー・ウィークでの催しは、多くの人目に触れるということが一番大切であると思ひておりますので、先程ご意見いただきましたように、駅での掲示や電光掲示板の利用等を考へております。

渥実委員

先程、吉井委員からも提案がありましたが、14年度にはロングビューの関係者が来日したということでしたが、予算があればロングビュー大使のような名目で、むこうの高校生などにきてもらってPRしてもらえればよいのと思ひました。もし、先方に来てもらえるような余力があるのであれば、その期間に宣伝活動を集中したらよいと思ひます。

豊委員

最後の手段は、ロングビュー出身のAETにやってもらうことは可能であると思ひます。やはり、ロングビュー市民に説明してもらうというのは一番大切であると思ひます。

渥実委員

例えば駅前に立っていただいて、ロングビュー市をアピールするのもおもしろいと思ひます。

事務局

AETへの協力要請も考へてみたいと思ひます。和光市のことも、もちろんロングビューのことも詳しいですし、日本語も上手なのでお話をしていただけると思ひます。

井上会長

身近なところからできることの一つですよ。

お金をかけないことは大切なことですが、必要なものはきちんとお金を出すようにしていただかないと、できるものもできなくなってしまいますので、両面から考へていただきたいと思ひます。

事務局

先程、井上会長にいただきました志木市のイベントに関する資料ですが、このイベントは目指すものの一つとしてはよいものであると思ひます。ただ、それなりに予算もかかるようです。

予算と人、時間と労力が必要ですので、すぐにできることではないです。

井上会長

市民と市役所職員が共同で実行委員会をつくりまして、一年間練り上げたものを成果として発表する場になっています。費用等は予算化されているようですが、食べ物にしましても、いろんなところに手作りのものが利用されていました。

事務局

会場使用料等は必要ですね。

事務局

実行可能かと思うことは、バスツアーの際の昼食時間にネットワークの方々との様なものを樹林公園で一緒に過ごすというのはいかがでしょうか。

井上会長

お昼に広いところで交流を図るということですね。このバスツアーはロングビュー・ウィークに合わせて実施する予定でしょうか。

事務局

特にロングビュー・ウィークにこだわっていません。また、懇話会の委員さんからいただいた意見を参考にいたしまして、より具体的にしていきたいと思います。

渥実委員

何回も言いますが、バスツアーですと、座席が決まってしまうので、コミュニケーションを取る相手が固定されてしまうと思います。ウォーキングの方がいろいろな人と話せるので楽しいのではないかと思います。バスツアーの提案というのは市が出したものですか。

事務局

“バスで”というのは、移動のことを考えて出したものです。市内は道も狭いところも多いですし、それなりに歩いていただく予定です。ただ、広く見るためにバスを使った方がよいという判断です。おっしゃられるとおり、バスでの移動のみですと、お話しする相手が固定してしまいますので、歩きもたくさん取り入れたものを予定しています。

例えば、長照寺ですとイチョウの木のように、訪れるところに名物のようなものがありますので、それを全て英語で説明する予定です。もちろん歩きながらも説明したりできますし、皆さんが交流できる時間は十分にあると思います。また、メインは外国籍の方と考えていますが、少し日本人の方にも入ってもらおうと考えています。人数の設定と応募状況によって多少の変更はあります。日本人にあっていただくと、やはり外国籍の方が日本人と交流できると思います。基本的には、説明は全て英語で行う予定です。それを承知の上で、日本人の方に参加していただきたいと思います。

井上会長

他にご意見はありますか。

鈴木委員

和光市のHPの英語版に“和光”と言っても外国の人には全く関心がないと思います。ただ、和光市というのは、キャンプ・ドレイクがあったところでもありますし、グラントハイツは、今の樹林公園のあたりが全部そうでした。そういうことに一つ触れるだけで、アメリカ人からのアクセス数がすごく増えると思います。樹林公園や理化学研究所の脇の方に当時の面影が残っていますが、そこに家族で来ている人もいます。たまたまインターネットを見ていたところ、やはり彼らも短期間ですがそこに住んだということで興味を持っています。そういうところだったという説明を入れるだけで、キーワード検索で引っかかるわけです。そうすれば、彼らも“一度行ってみようか”というふうになるかもしれません。歴史紹介の中に含んでみてはいかがでしょうか。

井上会長

何か他にご意見はありますか。

事務局

資料でお配りしました、第二回和光市国際化推進懇話会の裏面に、2005年市民まつりへの取組についてとありますが、今年も5月22日に開催される予定ですが、今年も国際ネットワークとして参加していただきたいと思っています。それに先駆けまして会議も開催したいと思っています。

井上会長

まとめたものはいつ頃発送していただけますか。中間報告は、今期に一度行くとおっしゃっていましたよね。

事務局

3月の前半頃にお送りする予定です。

井上会長

3月の末までに市長に報告をしたいということですよ。それでは、なるべく早く皆さんにまとめたものを送っていただけるようお願いしたいと思います。

他にご意見は無いようですので、会議を終了いたします。ありがとうございました。